



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



皮膚科

目に見えるがん、皮膚がんとは

皮膚がんは目に見えるがんであり、自分で早期発見が可能です。日本人には**基底細胞がん**、**有棘細胞がん**が多く、これらは顔面が好発部位であり紫外線が関与していると言われています。基底細胞がんは悪性度が低く転移を起こすことはほぼありませんが、有棘細胞がんは日焼けした皮膚や、やけど等の傷跡から発生し、進行するとリンパ節等に転移を認めます。どちらも早期の治療が必要です。

また進行の早いがんとしてほくろのがん、メラノーマとも呼ばれる**悪性黒色腫**があります。悪性度が高く、進行すると高い確率でリンパ節や臓器への転移をおこします。発症初期は、良性のほくろのように見えることが多いため注意が必要です。

皮膚がんを疑った場合はダーモスコープという拡大鏡で詳しく検査します。痛みのない検査ですが、拡大することで皮膚の内部まで観察することができます。皮膚がんが疑われる場合は、実際に皮疹の一部または全部を切除して確定診断します。

初期の場合は液体窒素を使用してがんを凍結させる方法や、がんに塗り薬を外用する方法がありますが、進行している場合は手術が必要です。皮膚がんより少し離して一回り大きく切除します。手術後の傷が大きくなり、顔や足底など整容面や機能を考えないといけないことも多く、このような場合は形成外科へ再建をお願いしています。

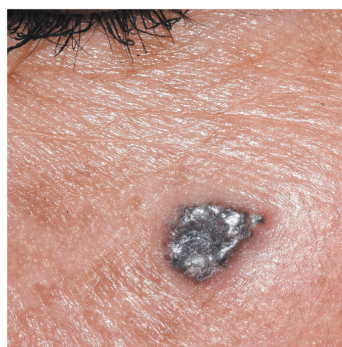
皮膚がんは他のがんと同じように早期発見が大事であり、日頃からよく自分の皮膚を観察することで早期に発見できます。気になる皮疹がある場合はぜひ皮膚科を受診してください。

(皮膚科 部長 石川 一志)

いろいろな種類の皮膚がん



有棘細胞がん



基底細胞がん



悪性黒色腫

耳鼻咽喉科

「好酸球性副鼻腔炎」とは？ ～難治性で再発しやすい副鼻腔炎～

好酸球性副鼻腔炎(ECRS)は、鼻の中に多数の鼻茸(ポリープ)ができ、**粘り気の強い鼻水**や**鼻づまり**、**匂いがわからなくなる嗅覚障害**などの症状をきたす難治性の慢性副鼻腔炎です。これは従来の細菌感染による副鼻腔炎とは異なり、白血球の一種である「好酸球」という特定の免疫細胞が過剰に反応することで起こるタイプの炎症で、2015年に国の指定難病に登録されました。

原因は不明ですが、アレルギー体質や気管支喘息、解熱鎮痛剤(NSAIDs)不耐性、アスピリン喘息との関連が高いとされ、成人になって発症する傾向にあります。通常の抗生物質は効果がなく、ステロイド治療(内服薬、点鼻薬)や内視鏡手術が治療の中心となりますが、最近ではステロイドの長期使用による副作用が問題となることが多く、内視鏡手術をおこなうことが多くなっています。手術後も再発しやすく、術後6年間で約半数が再発すると言われているため、術後も定期的な受診や内服加療、鼻洗浄等によるコントロールが重要です。近年では、タンパク質の一種である IL-4/IL-13 や IL-5 を標的とする生物学的製剤(デュピルマブ、メポリズマブ)が保険適用となり、術後の再発抑制や鼻茸縮小に有効とされています。

当院でも好酸球性副鼻腔炎に対する治療を積極的におこなっています。なかなか治らない鼻水や鼻づまり、嗅覚障害といった症状が続く場合は、早めに耳鼻咽喉科へご相談ください。

(耳鼻咽喉科 主任医師 松永 崇志)

好酸球性副鼻腔炎の主な症状

- ・粘り気の強い鼻水
- ・鼻づまり
- ・においが分かりにくい、しない



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら